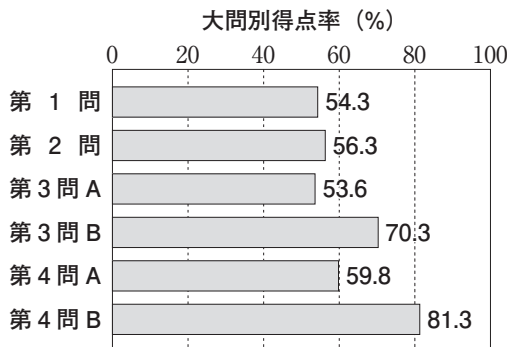
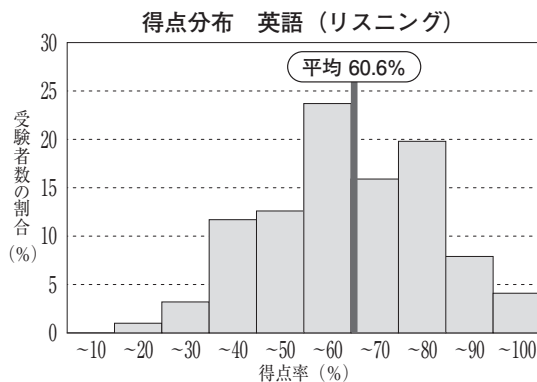


英語 (リスニング)

さまざまな英文素材の音を聴き、耳を鍛えよう。

I. 全体講評

今回の受験学年の平均得点は30.3点で、得点分布は下のグラフのようになっている。全体の得点率に換算すると60.6%で、まずまずの出来であった。大問別に見ると、最高が第4問Bの81.3%、最低が第3問Aの53.6%であった。前回も指摘したように、かつての第4問Bは長い説明文を素材として、内容も複雑だったため、これほどの得点率に達するのは稀であったが、日常的な会話文を用いるようになったことで、受験生には対処しやすくなったと言えるかもしれない。正解を得られなかった問題については、各自で解説を参照しながら、つまずいた理由をはっきりさせておくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 対話の聞き取り(数値・語句・イラスト選択)

難しかった時間の聞き取り問題!

短い対話文に基づく内容一致問題。第1問の得点率は54.3%で、個別の正答率を見ると、10%に満たない小問が1つあり、30%弱というものが1つあった。今回の場合、問2の正答率が最も低かったわけであるが、これは時間表現の形をとった数値問題である。時刻と経過時間のそれぞれを瞬時にとらえ、さらに計算を加えて答えるのが難しかったようだ。耳で聞いて即時に判断するには相当の訓練が必要である。また、質問文の意味を取り違えてしまった受験生もいるのではないか。イラスト問題と並ぶ第1問の特徴的な問題なので、過去のセンター試験でどのような出題例があったかを把握し、類似問題で十分練習しておこう。

第2問 対話の聞き取り(応答文選択)

話者の立場になって考えよう!

適切な応答文を選んで、対話文を完成させる問題。今回の第2問の得点率は56.3%で、標準的な成績だった。小問別の正答率では50%台が2問、60%台が4問と安定していたが、唯一30%台にとどまったのが問10である。特に込み入ったやりとりではないが、正解者は3分の1ほどだった。解答は本文最後のWould you like me to ~?という問いに対応するものでなければならないが、正解の②No, we can get them tomorrow.は、主語が複数のために選びにくい印象を与えたのかもしれない。しかし、当事者の立場になって聞いてみれば、他の選択肢では不自然なことが直感的にも理解しやすかったのではないだろうか。

第3問A 対話の聞き取り(質問に対する答えの選択)

話題とキーワードをしっかりとつかもう!

短い対話文に基づく内容一致問題。今回の第3問Aの得点率は53.6%であったが、小問ごとの正答率を見ると、20%台、40%台、80%台が1問ず

つと、かなりばらついていて、今回最も正答率が低かった問15では、正解②を選んだ人が30%弱いたが、③を選んだ人のほうが多かった。オフィスでの従業員同士の対話であるが、話題の中心はraise(昇給)であり、③のpromotion(昇級)のほうではない。多くの受験生にとって身近な語彙ではないのかもしれないが、これを機に覚えておいてほしい。

第3問B 長めの対話の聞き取り

冒頭から集中して聞き取るようにしましょう！

第3問Bの得点率は70.3%とよくできていた。今回のすべての大問の中でもかなりよい成績である。正答率の内訳を見ても、60%から70%台後半に及び、バランスもよくとれていた。今後もこの調子で安定した成績を残してほしい。ここでは対話の長さも一気に長くなるので、聞きながら理解するスピードが求められる。要所ではメモをとるなどの工夫も必要であろう。今回間違えた箇所については、どこに原因があったかを各自で突き詰めてほしい。そして、この問題形式に十分習熟し、できれば今回のように安定した得点源にしてほしい。

第4問A 長めの文章の聞き取り

本文と設問の言い換えの関係に注目しよう！

今回の第4問Aの得点率は59.8%で、平均的な成績であった。小問別の正答率を見ると、最後の設問が30%台にとどまり、これが足を引っ張った格好である。ここは、作家である「私」が、サイン会を行ったある町の古書店で、幼い頃に祖母が所有していた本に偶然出会ったときの記述に基づいている。設問ではWhy was the speaker shocked?となっているのに対し、本文の該当箇所はI opened its pages and got the shock of my life.となっている。～of one's lifeは「生涯最高の～、この上ない」などを意味する強調表現であるが、このような本文と設問の言い換えの関係に気づいたかどうかのポイントである。第4問ともなると、聞き取る分量もさることながら、内容面でも複雑になる。その内容をいかに総合的かつ的確に把握できるかがポイントである。また、上述のように、内容一致問題の性格上、本文と選択肢では同じ表現を避けるのがふつうである。こうしたことから、センター試験のリスニング問題では最も難しい箇所と言える。今回満足の

いく成績を取れなかった人は、今後トレーニングを積みながら、対応力を高めていてもらいたい。

第4問B 長めの会話の聞き取り

今後も気を抜かず、この調子を維持しよう！

リスニング最後の問題である第4問Bは長い会話を素材とした内容一致問題である。最後まで集中力を保つのは大変だが、今回の得点率は81.3%と非常によくできていた。前回に続いて80%をキープできたことは非常に頼もしく感じられる。今回の場合、募金活動の計画をめぐる友人同士の会話という設定が、比較的身近に感じられて、フォローしやすかったという側面があるかもしれない。いずれにしても、ここで安定した得点力を示しているのは高く評価できる。ただし、最後になって長い英文を聞き取らなければならないという条件の厳しさは変わらない。今後のトレーニングを続ける中で、問題に慣れると共に、ここ一番という時に求められる集中力を養ってほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆英語の音に耳を慣らそう！

リスニング力向上の基礎はまず耳慣らしであるということは前回指摘したとおりである。今回はこの点についてももう少し具体的に補足しておこう。たとえば、Can I help you?という言葉をつつと読み上げた場合、その音に近いカタカナで表記してみると、「キャナイヘウプユー」などとなり、Wait a minute.なら「ウェイラメネ」などであろう。このように、個別に取り出された単語の発音とは異なり、文単位の発音では、音の連続によって新たな音が生じたり、子音などが脱落したりする現象が多く見られる。また、ネイティブ音声などで聞き取り練習をする際に読み上げ原稿と比べてみるとわかるが、冠詞・代名詞・前置詞などのいわゆる機能語は、ごく軽く発音されるために音がほとんど聞こえないことも多い。これらが、英語の聞き取りを難しくしている最大の理由の1つである。したがって、会話や文章の聞き取り能力を高めるためには、こうした英語の音声上のルールに慣れることが不可欠である。それには音を聞きながら、読み上げ原稿をチェックすることも実践するようにしたい。